

イノベーション機構(Innovation Agency)

アゼルバイジャン政府は、産業多角化、IT・ハイテク産業育成の一環として、2018 年に「イノベーション機構(Innovation Agency)」を設立。理事長に若手実業家のトゥラル・カリムリ氏を招聘して事業を開始しました。

カリムリ理事長から、事業内容や今後の協力可能性等について聴取しました。

1. イノベーション機構とは

「イノベーション機構は、2018 年に大統領令によって設立されたアゼルバイジャンの政府機関です。スタートアップ企業を含め、アゼルバイジャンの企業の技術革新を促進することを目的としています。事務所は、バクーのバダムダー地区にあります。前身は、当時運輸・通信・ハイテク省傘下にあった国家IT開発基金とハイテクパーク(経済特区)公社で、両者を合わせて改組して、イノベーション機構が誕生しました。」

2. 主な役割の1つはハイテクパークの運営

「ミンゲチェビル(Mingachevir)とピララヒ(Pirallahi)の 2 か所にあるハイテクパークの運営を担っています。ミンゲチェビルのハイテクパークでは韓国の企業がラップトップパソコンを製造しています。」

3. スタートアップなどローカル企業の支援にも重点

「アゼルバイジャンには約200のスタートアップ企業がありますが、その内の6企業はイノベーション機構のオフィス内にあるインキュベーションセンターを拠点として活動しています。アゼルバイジャンでは、スタートアップ企業に10年間の税優遇措置が与えられています。そのほか、イノベーション機構はアゼルバイジャンの革新的な企業に対して助成金の供与、融資等も行っています。」

4. ぜひ日本企業もアゼルバイジャンへ

「アゼルバイジャン企業は、もっともっと日本企業との連携を図るべきだと考えています。そのためには、まず我々自身が日本に出向いて、アゼルバイジャンのことについて分かりやすく、かつ説得力ある形で広報し、我々の魅力を伝えなければならないと思います。日本企業には、アゼルバイジャンを CIS 諸国に向けた輸出拠点としてお勧めします。アゼルバイジャンから CIS 諸国への輸出には、日本から CIS 諸国への輸出に比べて輸出税の点

で大きなアドバンテージがあります。」

【同機構のコンタクト先】

Tural Karimli (Chairman of the Board)

karimlit@iaa.gov.az

Tural Magsudov (Head of Grants, Credits and Investment Dept.)

magsudovt@iaa.gov.az

【同機構の事業概要】 [イノベーション機構 \(Innovation Agency\)](#)

(以上)